

スポーツとことばと文化

小 川 洋 通

0. 娯楽と競技

スポーツは、遊戯であり、お祭り騒ぎであり、また遊びである。言い換えれば、それは、楽しみであり、心浮かれるものであり、現実世界のストレス解消でもある。このように、ある場合には、スポーツは、身体的なくつろぎ、気晴らし、娯楽である。

しかし、ある場合にはとくに競技では、スポーツは、社会という、人間行動の複雑な体系と密接に結びついている。

たとえば、経済、つまり金との結びつきがある。それは、商品の宣伝、販売、プレイヤーの賃金、テレビ放映の問題である。またスポーツは、さらに次のような結びつきがある。地域的ないし国家的なアイデンティティの確立、歴史的発展、メディアとの関連、性・民族・年齢・階級の問題、さらに政治と権力との問題がある。¹⁾

1. スポーツとことば

本稿では、上にみた、社会における諸側面を、スポーツにまつわることばを通して捉えることを試みる。²⁾

ここで、クリケットについて考えてみよう。

その指示的ないし辞書の意味は、11人からなる二つのチームによっておこなわれる試合のことである。しかしながら、現在、一般的に、その含む意味は、多種多様にわたっており、次のようなものがある。

- ・社会階級に関わるもの：upper class, public schools, civilized, sportsmanship, etiquette, etc.
- ・地域や場所に関わるもの：countryside, southern England, village green, Lord's, Yorkshire vs. Lancashire, etc.
- ・年齢や性に関わるもの：men, middle-aged men, old ladies in hats, etc.
- ・政治に関わるもの：tradition, conservatism, John Major, etc.

これらは、しかし、クリケットを正しく捉えているものではない。クリケットの現実の姿は、次のようなものである。

- ・ウエイルズやスコットランドさらにイングランド北部の工業都市でおこなわれている。

- ・ 黒人やアジアのプレイヤーが英国のプロとアマの試合に多大な影響を与えている。
- ・ 主たるグラウンドはすべて大都市に存在する。
- ・ 多くの女性が競技をしている。

それでは、なぜこのようになるのであろうか。

それは、スポーツが、国家や地域に関わるからである。

それが、ひいては、商業と密接に関わるからである。

スポーツは、いわば商品であり、スロウガンやキャッチフレイズやイメッジは、直接販売に影響を与える。

ほんらい、クリケットは、賭けと不正と観客のもめごとで知られていた。

しかし、今世紀の初めになると、次の表現は、反社会的な行為を示すために用いられる、一般的なことばとなった。³⁾

It's not cricket. (それは公明正大でない)

また次の表現は、フェアプレイを示すことばとなった。

To play cricket. (公明正大にふるまう)

このようにして、クリケットは、理想的な田園の生活の一例となったのである。

その理想像は、いくつかの要因によって支えられている。そのひとつは、テレビの放送を含む、メディアによって、助長されてきた。さらに政治家の発言や、文学作品によって、またスポーツそれ自身によって促進されてきた。

このように、クリケットについての含意には、経済的、歴史的な発展、メディアによる報道、政治家の発言、文学作品、スポーツの持つイメッジから生じてくる、ありとあらゆる意味合いがある。

サッカーについてみてみよう。

大きな工業都市における、多くのクラブは、ほんらい、屋根のないテラスに立ってサポートする、労働者階級と結びついたイメッジを、伝統的に持っていた。

しかし、テレビの放映や大企業によるクラブの運営が、座席を備えたスタジアム、高価なシーズン入場券を生みだした。したがって、いまやサポーターには、労働者階級というイメッジはない。

それにもかかわらず、依然として、そこには、悪いイメッジが存在する。

Working-class support, fanatical fans, regional identity, etc.

もちろん、実際のところ、クラブは、地域の存在や誇りや団結の面で、経済的にも、文化的にも、大いに貢献しているのである。

今日スポーツは、財政的にいっそう関わりあうことによって、経済的、商業的な体制の一部となっている。したがって、それは、社会的な貧困をもたらさう。また同時に、スポーツは、

社会的な地位を保証するものでもある。

スポーツは夢を与えるものである。若者は、実際に、試合を観戦したり、将来、プレイヤーになるという希望がある。

しかしながら、多くのものは、テレビで試合をみることによって、ひいきのチームと一体になることができるのがせいぜいである。クラブとの一体感をうる唯一の方法は、そのチームのユニフォームを身につけることである。

スポーツは、いまや、ビッグビジネスである。多くの企業は、スポーツを宣伝として用いる。スポーツのチームは、企業によって後援、主催され、企業名や商品名をかかげたウエアを身につける。多くのスポーツ大会やリーグもやはり、企業によって後援、主催され、宣伝される。

スポーツ雑誌は、スポーツ用品の宣伝に満ちている。ブランド名や、そのロゴ、スロウガン、そしてスタープレイヤーである。もちろん、スポーツに協賛するという形で、スポーツとは関係のない多くの商品が、同じように宣伝される。

多くの宣伝文は、話しことばの特徴を有している。

たとえば、命令文が用いられるのも、そのひとつである。

Just do it.

Understand this now.

Change the game.

このような命令形は、そのスロウガンに、力強さと断固としたものを感じさせる。

2. スポーツと男性女性

スポーツは、それを取りまく世界の影響をうける。したがって、スポーツもまた、ジェンダーの問題を免れることはできない。

スポーツは、現実の世界を、どのように映しだしているか。スポーツは、男性女性をどのように扱っているかについて、一般に、次のような興味ある事実がある。

- ・女性のスポーツを報道する範囲が男性のそれに比べて少ない。
- ・女性のスポーツライターや解説者が少ない。

このような事実にもかかわらず、男性女性が、比較的、同じように取り扱われているものに、たとえば、テニスがある。

ここでテニスにおける、呼びかけについてみてみよう。

次のような違いがみられる。

- ・主審

男性： 姓 Game and first set to Sampras.

女性： 敬称＋姓 Advantage Miss Graf.

・記者や解説者

男性： 姓名 Boris Becker 姓 Becker

女性： 名 Martina

男性： ニックネーム Pistol Pete (Pete Sampras)

the Pirate of SW19⁴⁾, the White Wizard (Andre Agassi)

女性： ニックネーム La Bell, The Body (Mary Pierce),

Little Spaniard, Spanish Slugger (Arantxa Sanchez-Vicario)

スポーツ記者は、しばしば、比喩表現を用いる。⁵⁾

女性の魅力は、次のような表現で示される。

She made a queenly entrance.

As elegantly and haughtily she struts from point to point.

女性の魅力は、食べ物によって表わされる。

They are tart/crumpet.

They are dishy/tasty.

女性は、また動物にたとえられる。

She is a bit like Bambi.

The thoroughbred Pierce.

男性は、現実的な人間として、ないしは、伝説的な英雄として描写される。これに対して、女性は、性的に魅力的なものとして、ないしは、次に示すように、魅力のない、たとえば、機械として描かれる。⁶⁾

The little Spaniard has an unlovely functionalism.

The little dynamo.

もうひとつの例として、陸上競技の場合をみることにしよう。

男性のスプリンターは、たとえば、次のように言及される。

The very tall thin figure.

これに対して女性の短距離走者は、次のように示される。

The tall slim figure.

形容詞 thin は、男性にとって魅力的であっても、女性にとって魅力的とはならない。女性にとって魅力的であるのは、形容詞 slim である。

女性の魅力は、髪の毛によって示される。

ブロンド。

A slight blonde haired figure.

The tall blonde haired Dutch woman.

女性の魅力は、また長いすらりとした、脚によって表わされる。

The long legs are really eating up the track.

With the length of her legs.

このように、女性に用いられる slim figures, blonde hair, long shapely legs は、同時に、性的な魅力を示すものである。

女性の陸上競技者にとって、結婚はとくに重要であるかもしれない。

次の例は、あたかも結婚して初めて、女性の競技者は、その存在を認められるかのように描かれている。

She then moved to Spain where she's married.

Married to her coach M.W. good sprinter himself.

それは、次のことを物語っているかのようなのである。つまり、女性の競技者の成功は、あたかも男性競技者の成功とともにあるものであり、またそのお陰によるものである。

このように、スポーツにおける、男性女性の描き方は、われわれの現実世界における、男性女性の捉えかたを反映している。

3. スポーツと国家

スポーツは、国家や国民の特徴を体現するものである。

たとえば、スウェーデンのスポーツマンは、冷静と沈着と精神的、心理的強さを持つものとして述べられる。

The Iceberg, Ice Borg (Bjorn Borg)

A cool frame of mind (Jesper Parnevik)

これは、おそらく、スウェーデンの持つ、気候や風土を反映しているものと考えることができる。

しかし、これはまた、その反対の特徴である、鈍感、不活発や、情熱の欠如、退屈な機能主義をも意味しうることになる。

ドイツチームは、訓練、信頼性、チームワーク、効率などに長けているとして述べられる。

To steamroller the opposition.

A machine which runs smoothly and efficiently to victory.

To grind their opponents down.

His service has a machine-like efficiency.

これらは、ドイツの持つ、高度な製造工業を反映しているものであると思われる。

ところでイギリス人は、勇気と責任、積極性、闘争心を持つものとして述べられることが多い。

このように、それぞれ、スウェーデン、ドイツ、イギリス国民の特徴として、次のような表現を見いだすことができる。

The cool Swede, the mechanical German, the lion-hearted British.

スポーツは、戦争にまつわることばによって表わされる。⁷⁾

サッカーでは、攻撃や防御に言及することが数多くある。

The attack shoots for goal.

The shot can be off target or on target.

When the game is drawn, it is decided by a decisive penalty shoot-out.

The opponents often defend enemy territory.

Raiders break out of defence.

To attack the opposition's rearguard.

A particularly sharp break-out is a counter-attack.

A sustained spell of attack will lead to a siege of the opponents' line.

新聞の記事には、次のような、戦争に関わることばを、数多く見いだすことができる。

The England cricketers battled their way back into the match.

The French athlete intends to defend her title.

The Belgian rider fought off a strong challenge in the Tour de France.

次の例は、現実の戦争を踏まえた表現となっている。

England put Scotland to the sword in the Battle of Britain.

England is everything to him. He'd be a fine soldier... a great man fighting for his country. Just watch him before the kick-off against Germany.

これらの表現は、国家間の場合に限らない。それを、国内においても見いだすことができる。とくに、政治的ないし、経済的な対立や競争があるばあいには、そのようである。

Barcelona vs. Madrid in Spain.

North vs. South in England and Italy.

オリンピックは、国家を代表する競技である。

たとえば、英国のランナーは、次のように述べられる。

K.H. representing Queen and Country.

ある意味で、選手は、競技のためというよりは、むしろ国家のために走るのである。

国家主義や民族主義をかかげた、もっとも良く知られている例は、1936年のベルリンオリンピックである。さらには、世界の政治の両陣営による、1980年モスクワ、1984年

のロサンゼルスオリンピックボイコットの例がある。

次の表現は、個人の成績が、直接国家と結び付けられているものである。

It's gold for Britain.

それに対し、勝利ではなく、敗北は、国家や国民の非難をこうむることになる。

それは、国家の威信の喪失を意味するからである。

あるアフリカの選手は、次のように述べている。

I am not doing this sport to be famous. I look at it as an opportunity
to put my country on the map.

スポーツは、国家の一致団結や統一をうながす手段であり、同時に、国家を世界に認知させる手段でもある。

次の例は、一步進めて、スポーツが、国際的な連携の手段となりうることを述べているものである。

Sport has a role to play in the uniting of many countries of the world
because it speaks a language far beyond the reach of politicians.

音楽や絵画といった芸術と同じように、スポーツは、世界共通のことばである。

しかしながら、これまで見てきたように、それは、また同時に、政治的手段ともなりうるという二面性を持っている。

国家や国民の像は、その歴史、それにまつわる伝説、さらにフィクションなどによって形作られる。この際に、スポーツは、国家や国民の像を描くうえで、最も重要なもののひとつとなっている。

A very English hero. Michael Atherton's match-saving innings in Johannesburg
was by any standards a historic feat: one of the most distinguished and brave
performances by an England captain — or any player — ever.

これは、クリケットについての記事であるが、まずクリケットは、国民的なスポーツ、国技であることである。それは、英国性という、国家の神話を支えるものである。そこでは、勝利することよりも、不撓不屈の精神で、いかに戦うかが、むしろ重要視される。

このように、スポーツは、いまや、戦争に取ってかわって、国家の神話や国家の像を、現実的な、生の形で、たえず与えつづけている。

スポーツは、もちろん公式には、それと認めることはしないにもかかわらず、国家の政治や国民の認識と、分かちがたく結びついている。

始球式には、大統領や首相が登場する。

スポーツのファンであることは、とりもなおさず、その国家の一員であることを示している。たとえば、日本において、相撲や、野球やサッカーのファンであることを表明することは、けっ

して不自然なことではない。むしろ、それらのファンでないことを吐露することのほうが、勇気のいることなのかもしれない。それらは、すでに、あまりにも日本の文化にふかく組みこまれてしまっているからである。

ワールドカップや、オリンピックでは、世界中が、あつく燃えあがる。それは、また同時に、世界中の文化の戦いの面を示しているのでもある。⁸⁾

以上を要するに、スポーツという文化、社会現象を、ことばを通して捉えることによって、スポーツの持つもろもろの側面、つまり経済、歴史、地域的国家的アイデンティティ、メディア、性・民族・年齢・階級、政治と権力等の側面を明らかにした。

注

- 1) 英国におけるスポーツを扱ったものに、Mason (1988) がある。
- 2) 用例は主として、Beard (1998) によっている。
- 3) *OED* の初出の例は、1851年。
- 4) ウインブルドンの所番地、London SW19。
- 5) これに関しては、Lakoff and Johnson (1980), Lakoff (1987), Ortony (1979/1993), Palmatier and Ray (1989), Taylor (1989/1995), Kovecses (2002) などを参照。
- 6) スポーツにおけるエロティックな要素については、Guttman (1996) を参照。
- 7) たとえば、Liddle (1987) などを参照。
- 8) 近代スポーツの成立と伝播を扱ったものに、Guttman (1994) がある。
また、スポーツの種々相を捉えようとしたものには、サントリー不易流行研究所(編) (1992)、杉本 (1995)、多木 (1995)、玉木 (1999) などがある。

参考文献

- Beard, Adrian. 1998. *The Language of Sport*. London: Routledge.
- Guttman, Allen. 1994. *Games and Empires: Modern Sports and Cultural Imperialism*. New York: Columbia University Press.
(谷川 他訳. 1997. 『スポーツ帝国：近代スポーツと文化帝国主義』京都：昭和堂)
- . 1996. *The Erotic in Sports*. New York: Columbia University Press.
(樋口 訳. 1998. 『スポーツとエロス』東京：柏書房)
- Kovecses, Zoltan. 2002. *Metaphor: A Practical Introduction*. Oxford: Oxford University Press.
- Lakoff, George. 1987. *Women, Fire and Dangerous Things*. Chicago: University of Chicago Press.
(池上 他訳. 1993. 『認知意味論—言語から見た人間の心』東京：紀伊国屋)
- Lakoff, George and Mark Johnson. 1980. *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago Press.

スポーツとことばと文化

- (渡部 他訳. 1986. 『レトリックと人生』 東京：大修館)
- Liddle, Barry. 1987. *Dictionary of Sports Quotations*. London: Routledge.
(樋口 他訳. 1991. 『欧米スポーツ名言名句1200』 東京：北星堂)
- Mason, Tony. 1988. *Sport in Britain*. London: Faber and Faber Ltd., Publishers.
(村松, 山内訳. 1991. 『英国スポーツの文化』 東京：同文館)
- Murray, J.A.H., Henry Bradley, W.A. Craigie and C.T. Onions. 1884–1928. *The Oxford English Dictionary*. [OED] 10 vols. Oxford: Oxford University Press.
Corrected reissue with an Introduction, Supplement, and Bibliography, 13 vols., 1933.
R.W. Burchfield, A Supplement to OED. Vol. I(A-G), 1972; Vol. II(H-N), 1976; Vol. III(O-Scz), 1982; Vol. IV(Se-Z), 1986.
Second Edition. 1989. 20 vols. Second Edition on Compact Disc. 1992.
- Ortony, Andrew (ed.) 1979/1993. *Metaphor and Thought*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Palmatier, R.A. and Ray H.L. 1989. *Sports Talk: A Dictionary of Sports Metaphors*. New York: Greenwood Press, Inc.
(本名, 鈴木訳. 1997. 『スポーツからきた英語表現辞典』 東京：大修館)
- 杉本 厚夫. 1995. 『スポーツ文化の変容』 京都：世界思想社.
- サントリー不易流行研究所(編). 1992. 『スポーツという文化』 東京：TBSブリタニカ.
- 多木 浩二. 1995. 『スポーツを考える』 東京：ちくま新書.
- 玉木 正之. 1999. 『スポーツとは何か』 東京：講談社現代新書.
- Taylor, R. John. 1989/1995. *Linguistic Categorization: Prototypes in Linguistic Theory*. Oxford: Clarendon Press.
(辻 訳. 1996. 『認知言語学のための14章』 東京：紀伊国屋)